

令和4年度 学校経営の具体的な取組【学校評価書】

岡山県立総社南高等学校

(○は数値評価、●は取組評価) 【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。

学校経営目標		主担当	具体的計画	今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
					達成状況と年度末への課題	評価	達成状況と次年度への課題	評価
(1) 学校設定教科「表現」の実践・研究	①「表現Ⅰ」の実践と成果・課題の検証	教務課	□表現力育成委員会、1年次、総探委員会と連携協力して、総合的な探究の時間との関連を考慮しつつ、「表現Ⅰ」の具体的な年間指導計画の作成、実践を支援する。 □「表現Ⅰ」の円滑な実施に向けて、各課や学年・年次との連絡調整を行う。	○「表現Ⅰ」に関する生徒アンケートを行い、「表現力が向上した」の項目において、肯定的な回答が70%以上。 ●随時、実施状況を振り返り、問題点を発見し改善策を考案する。 その上で、「表現Ⅰ」の年間指導計画を修正する。	○1学期に1年次生対象に「表現Ⅰ」に関するアンケートを行った結果、「表現力が向上した」の項目において、肯定的な回答は85.3%であった。 ●1学期の実施内容を振り返り、2学期の実施内容について修正案を考案することができた。	B	●次年度の「表現Ⅰ」の開設計画書及び年間指導計画、使用教材や評価について改善、修正案を考案することができた。今後は、2年次の「人文表現」「理数表現」「国際表現」「美工表現」「美工作表現」及び総合的な探究の時間との関連付けについて更に検討を進める。	B
			□課題の解決や価値の創造を実践するための多様な表現力を身に付けた新たな世界を切り拓く人材の育成に向け、地域・社会の課題解決に向けた対話や教材、発表のスキル等の自己の考えを表現する基礎的な力を養う。	○発表や実践等の表現の場を1年次全生徒に5回以上提供する。 ○学校自己評価生徒対象アンケートで「多くの科目の授業に、発表や教え合いなどの活動的な場面が設定されている。」の肯定的割合が90%以上。 ●表現のスキルに対する共通理解を図りながら実践する。 ●「表現Ⅰ」の評価を実践・検証してルーブリックの改善を図る。	「表現Ⅰ」の導入には自己開示や対話法、相互理解の取組をもっと入れて、安全安心な人間関係クラス作りをもっと重視する必要があると感じた。スキルの実施面よりも知識面を重視しても良かった。 ○表現タイム、ミニ課題研究、MyVisionといった発表機会を計画通り設けた。 ○当該アンケートは実施していない。 ●スキルの定着理解を測るために、ペーパーテストの実施も考えたい。 ●生徒アンケートでは高い評価を得た。ルーブリックは難解で使いにくかったため、生徒にも理解しやすい簡素なものに改善中である。	B	○自己紹介プレゼン、マイク課題研究、MyVision撮影、社会貢献発表会で表現の場を創った。今後も未来探究Ⅰの発表会を2月に予定している。 ○学校自己評価生徒対象アンケートで「多くの科目の授業に、発表や教え合いなどの活動的な場面が設定されている。」の肯定的割合が96.8%であった。 ○「表現Ⅰ」の評価アンケートでは、「表現力が向上した」「主体的で対話的な活動が多かった」「授業内容は興味深いものが多かった」の肯定的評価はそれぞれ、85.3%、95.9%、84.8%と高かった。 ●表現のスキルに対する定着・共有のために、テキストを活用して定期考査を実施した。	A
		向国「人文表現」の実践、 「理工数表現」の実践、 「国際表現」の実践、 「美工表現」の実践	□「人文表現」の具体的な指導内容について研究し、具体的な年間指導計画を作成する。	○12月までに具体的な年間指導計画を完成させる。 ●関係教科と連携を図り、人文系としての学びの方向性が明確になる指導計画を作成する。	○指導内容を検討中である。10月には系で情報を共有し、12月までに年間指導計画の大枠を決める。 ●素案作成の段階である。人文系選択者が多く、そのニーズに応えられる展開が可能かどうか、系で再検討する必要がある。	C	●「人文表現」の構成、年間指導計画は概ね整った。国語科・地歴公民科・保健体育科で調整し、各単元の細部や進め方、評価について考えを詰めていく予定である。	B
			□「理数表現」の具体的な指導内容について研究し、具体的な年間指導計画を作成する。	○12月までに「理数表現」の年間指導計画が完成している。 ●教科の枠を超えて連携し、指導計画作成のための研究を行う。	○「理数表現」の指導内容、時数の割り振りは大方決まっているが、教材や指導内容は検討中である。 ●各担当で指導計画のための研究を行っている。	B	○各単元・各教科の授業計画の調整を更に進める。 ●「理数表現」の年間指導計画は概ねできている。各科でも指導計画の共通認識は得られている。	B
			□「国際表現」の具体的な指導内容について研究し、具体的な年間指導計画を作成する。	○8月までに指導内容・教材の概要が完成する。 ●指導内容の研究と指導計画の作成に当たっては、学年や年次を越えて連携・協力しながら情報を共有する。	○指導内容の大枠はできあがっているが、教材については今後検討する。 ●次年度を見据え、学年や年次を越えて新たなことに取り組んでいる。	B	○指導内容・計画の概要はできた。教材については2月中に系のメンバーで検討の上、決定したい。 ●学年や年次を越えて情報を共有しながら新たなことに取り組む。指導計画への組み込み方を検討していく。	B
			□「美工表現」の具体的な指導内容について研究し、年間指導計画を作成する。	○12月までに「美工表現」の年間指導計画が仕上がっている。	○指導内容の大枠はできている。細かい内容についてこれから検討する。	B	○年間指導計画は12月までにできた。各単元の授業計画の細部を更に考えていく予定である。	A
	③一人一台端末・iPadの活用 の研究・実践	教務課	□円滑なICT利活用が可能な環境をハード・ソフト両面で向上させる。	○学習系ネットワークのカバー率99.9%を実現する。 ●円滑なICT利活用が可能な環境の構想を練る。	○学習系ネットワークのカバー率99.9%が予算次第で実現する見込みである。 ●円滑なICT利活用が可能な環境の構想を練っている最中である。	B	○学習系ネットワークのカバー率99.9%は実現できなかったが、新規にネットワークに接続された教室が増えた。 ●円滑なICT利活用が可能な環境の構想を練った。	A
		生徒課	□iPad生徒利用規定を遵守する姿勢の育成とスタンバイの活用及び学校生活アンケートの集計結果を通じて、より効率的な生徒理解に努める。	○学校自己評価アンケートで学校生活に対する満足感が90%以上。 ●スタンド・バイ及び学校生活アンケート結果に迅速に対応する。	○iPad生徒利用規定の遵守については、情報モラル講演会、タブレット利用に関する集会を開催した。導入初年度における生徒の戸惑いを解消しつつ、より効果的な利用に繋げるため継続的な指導に努める。 ●スタンド・バイは、昨年度より相談件数は増加した。軽度の相談が大半を占め、相談のしやすさが件数増加に繋がっている。学校生活アンケートは回収率は99.3%。各学年において迅速な実態把握と対策、継続的な指導へ繋げていく。	B	○iPad生徒利用規定の遵守については、利用年次である1年次団との連携でタブレット端末の積極的な活用を重視する形で指導を行ってきたが、状況を鑑みて指導内容の改善に取り組んだ。さらに次年度へ向けて、利用規定を生徒を交えて再検討し改善へ繋げる。 ●全体的にトラブルや生徒の些細な変化への気づき、迅速な対応ができた。次年度へ向けて、実態把握が困難なものに対しても生徒への声かけや反応を注視しながら継続して見守る体制を維持する。	B
		1年次	□授業や家庭学習で一人一台端末を活用して、生徒一人ひとりの理解度に応じた個別最適な学びや、生徒同士の協働的な学びなどを進める。	○1年次生徒アンケートで「iPadの利用により、学習の効果が上がったと思う。」の肯定的割合が70%以上。 ○1年次教員向けアンケートで「授業で生徒用iPadの使用が少なくとも1回行った。」の肯定的割合が90%以上。 ●ベネッセハイスクールオンラインやClassi等の機能を活用して、生徒の学力に応じた教材を提供する。	一人一台端末の利活用については教員が情報を共有して、前向きに取り組んでいる。まだ明確な成果(評価)が示されていない。 ○当該アンケートは実施していない。 ○7月授業アンケートの結果では全校で76%の肯定的割合だった。1年次単独での当該アンケートは実施していない。 ●Classiでの学習マップ機能で全員に向けてスタディーサポートの結果に応じた課題配信を行った。	A	○1年次生徒アンケートで「iPadの利用により、学習の効果が上がったと思う。」の肯定的割合が89.4%であった。 ○1年次教員向けアンケートで「授業で生徒用iPadの使用が少なくとも1回行った。」の肯定的割合が100%であった。(養護教諭は除く) ●マナビジョンによる校外模試の目標設定や振り返りなどを実施し、Classiでの学習マップ機能で全員に向けてスタディーサポートの結果に応じた課題配信を行い、生徒の学力に応じた教材を提供した。	A

(○は数値評価、●は取組評価)

【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。

学校経営目標	主担当	具体的計画	今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況と年度末への課題		達成状況と次年度への課題	
					評価		評価
(2) 授業改善と学力向上の取組	① 学習評価（観点別評価）の研究・実践	教務課	□シラバスを各クラスに配布し、評価基準や具体的な評価方法を生徒に周知する。 □生徒の学習改善や教員の指導改善に役立つような、評価方法を研究する。 □使用しやすい環境整備を図る。(サイン計画) □図書委員会の活動(LHR読書会、図書館だより)	○警告点保有者の人数が、各学年・年次で各学期末に10名以下。 ○各クラスの年間評点平均が60点以上。 ○読書会後のアンケートで意義を感じる生徒が7割以上。 ●生徒のデザインによるサイン計画の実施。	○1学期末の警告点保有者の人数は、3学年が5名、2学年が9名、1年次は評価の方法が異なるが、Cを2つ以上持ったものが15名であった。 ○1学期の評点平均は、3学年、2学年ともにすべてのクラスで60点以上であった。 ○令和4年度入学生以降の評価方法を決定することができた。 ○読書会後のアンケートを2学期末に予定。図書館だよりの発行を継続できた。 ●図書館内のサイン計画を3学期に予定(美工系2年生)。	○2学期末時点の警告点保有者の人数は、3学年が8名、2学年が14名であった。この警告を受けて、学年末には改善を期待したい。 ○2学期末時点の各クラスの評点平均の平均は、3学年が62.9点、2学年が62.3点であった。 ●観点別評価、特別活動の評価の申し合せ事項について決定し、実行することができた。 ○図書館だよりの発行を継続している。 ●図書館内のサイン計画を3学期に予定(美工系2年生)。	B
		国語	□生徒に分かりやすい観点別評価の基準と評価方法を研究する。	●分かりやすい観点別評価の基準と評価方法が行われている。	●定期調査や提出物などの観点別評価の基準と評価方法を説明し、評価を行った。	●1年次現代の国語・言語文化において、定期調査や提出物などの観点別評価の基準と評価方法を説明し、評価を行うよう努めた。	B
		地歴公民	□生徒に分かりやすい観点別評価の基準と評価方法を研究する。	●分かりやすい観点別評価の基準と評価方法が行われている。	●1年次の地理総合・歴史総合において、観点別評価の基準と評価方法を示したプリントを生徒に配付説明し、評価を行うことができた。	●1年次の地理総合・歴史総合において、観点別評価の基準と評価方法を示したプリントを生徒に配付説明し、評価を行うよう努めた。	B
		数学	□生徒に分かりやすい観点別評価の基準と評価方法を研究する。	●分かりやすい観点別評価の基準と評価方法が行われている。	●1年次の数学のオリエンテーションにおいて、観点別評価の基準と評価方法を示したプリントを生徒に配付説明し、評価を行うことができた。	●オリエンテーションで示した評価方法で評価し、教員間で共通理解を図りながら評価を行うよう努めた。	B
		理科	□生徒に分かりやすい観点別評価の基準と評価方法を研究する。	●分かりやすい観点別評価の基準と評価方法が行われている。	●定期調査や提出物などの観点別評価の基準と評価方法を説明し、評価を行った。	●オリエンテーションで示した評価方法で評価し、教員間で共通理解を図りながら評価を行うよう努めた。	B
		保健体育	□生徒に分かりやすい観点別評価の基準と適切な評価方法を研究する	●分かりやすい観点別評価の基準と評価方法が行われている。	●1年次の保健体育のオリエンテーションにおいて、観点別評価の基準と評価方法を示したプリントを生徒に配付説明し、評価を行うことができた。	●オリエンテーションで示した評価方法で各種目において評価し、教員間で共通理解を図りながら評価を行うよう努めた。	B
		芸術	□生徒にも分かりやすい観点別評価の基準と評価方法を研究する	●明解で分かりやすい観点別評価の基準と評価方法が考えられている。	●各単元の前後で観点別評価の基準と評価方法を説明し、評価を行った。	●芸術科教員間で新評価についてのミニ研修を行い、生徒には評価基準を示しながら評価を行うことができたのではないかと感じているが、まだ試行錯誤の状態だと感じられる。	B
		英語	□生徒の意欲につながるような適切な評価方法を研究する	●昨年度作成したCan-Doリストに照らし合わせ、生徒の英語運用能力等に関して適切な評価が行われている。	●定期調査や、音読、プレゼン等のアクティビティを行った時に、Can-Doリストを参考に評価を行った。	●様々な活動を評価するときに、Can-Doリストをベースにしたcriteria(評価基準)を用意し、ぶれない評価に努めた。	B
		家庭	□生徒に分かりやすい観点別評価の基準と評価方法を研究する。	●分かりやすい観点別評価の基準と評価方法が行われている。	●定期調査や提出物、発表などで評価の基準と評価方法を説明し、評価を行った。	●様々な評価についての基準を示し、評価を行ったが、より生徒に評価基準を浸透させるよう努めた。	B
		情報	□新学習指導要領に基づいた観点別評価の方法について研究を進める。特に、「思考・判断・表現」の評価について工夫する。	●年間に1回、レポートを課して適正な評価が行われている。	●勤務曜日の異なる非常勤講師4名が評価者となるため、シラバスに明記した評価観点をすり合わせながら1学期末の評価を行った。	●勤務曜日の異なる非常勤講師4名が評価者となるため、シラバスに明記した評価観点をすり合わせながら公正な評価を行った。	B
	② 進路指導を意識した系統的な取組の研究・実践	進路課	□新入試の情報を収集し、生徒・保護者・教員向けに情報発信を行う。 □模試データを分析し、相対的弱点を見つけたし、対策をとる。	○学校自己評価アンケートにおいて、進路課の取組に対して理解を示してくれた保護者の割合が昨年度(81.9%)よりも上昇する。 ○保護者向けの(案内・資料提供を含む)連絡を月1回以上発信する。 ○月1回以上、成績資料を進路課会議で報告・分析する。 ●進路検討会等で学力向上に向けた手だてを共有する。	○「進路通信」など発行の際はClassiを利用して保護者に発信をしており、継続していきたい。 ○進路課会議において各学年の校外模試や実力考査の分析や報告を共有している。今後志望調査や学習実態調査の共有も行っていく。 ●進路検討会においては最新の情報を共有し、生徒の希望や状況を共有することができた。進路実現に向けて今後も継続していく。	○学校自己評価アンケートにおいて、進路課の取組に対して理解を示してくれた保護者の割合が昨年度に比べて0.3%上昇した。 ○「進路通信」などClassiを利用して保護者に年間7回発信をした。 ●説明会等では、その都度保護者が見られるように動画をアップした。 ●進路最新情報フォルダを作成し、国公立大学の過去問・直接聞いた入試情報・令和5年度入試の動向をアップし、見られる状況にしている。	B
		1年次	□学習実態調査等を組織的に活用し、主体的かつ継続的な家庭学習を定着させる。 □キャリアパスポート等を活用した生徒との面談を通じて、進路意識、学習意欲の向上を図る。	●学習実態調査の活用を呼び掛けるとともに、個人面談を活用して主体的な学習を定着させる。 ●総探やLHR、科目選択、行事を連携させ、効率的に運営する。 ○昨年度年2回のキャリアパスポート作成を学習イベント毎に5回以上作成し、個人面談を活用して進路意識の向上を図る。 ○学校自己評価アンケートの1年次生徒「学校は進路の意識が高まるように相談の機会の設定や情報提供を行っている。」の肯定的割合が90%以上。	社会体験やキャリア学習から自ら目標を見つけ、主体的な学習や進路の取組を育みたい。また、全ての保護者を協力者として風通し良く情報を共有したい。 ●集会等で家庭学習の大切さを呼びかけた。個人面談では面談シートを活用して振り返りを促した。 ●連携して進路指導を効率的に行っているが、新しい科目「表現1」の狙いを一層明確にする必要がある。 ○キャリアパスポートを既に3回作成させて進路意識の向上を図っている。また、南翔祭といった学習イベントでも作成させた。 ○当該アンケート実施は年度末である。	●集会等で家庭学習の大切さを呼びかけた。個人面談では面談シート・キャリアパスポートを活用して振り返りを促した。年度後半に入り学習場面で前向きな雰囲気が増している。課題未提出者に対しては放課後居残り指導を実施しているが、目に見えて該当者が減ってきた。 ●外部模試をランドマークとして目標・計画の設定、対策、自己採点、振り返りのサイクルを総探やLHRで構築した。更に、科目選択、進路行事を連携させることを意識して、改善を行った。 ○キャリアパスポートを既に4回作成させて進路意識の向上を図っている。また、南翔祭といった学習イベントでも作成させた。 ○学校自己評価アンケートの1年次生徒「学校は進路の意識が高まるように相談の機会の設定や情報提供を行っている。」の肯定的割合が87.3%と概ね基準に達した。	A
		第2学年	□総合的な探究の時間における進路・系に関連した探究活動を通して進路意識を高める。 □進路志望の明確化を図り、主体的な学習態度を養う。	○学習実態調査において1日平均150分以上の学習時間を確保している。 ○校外模試において、偏差値50以上の生徒が95名(40%)以上、偏差値60以上の生徒が9名(4%)以上。	○6月学習実態調査の結果は1日平均148分であった。年度末には180分確保できるように指導を続けたい。 ○7月進研記述模試の結果は、偏差値50以上の生徒が114名(48%)、偏差値60以上の生徒が15名(6%)であった。理社が加わる11月模試でこの数値が維持できるように指導を続けていきたい。	○11月学習実態調査の結果は1日平均147分で、目標の180分に30分届かなかった。国数英各々あと10分程度の伸長の手立てを図る。 ○11月進研記述模試の結果は、3教科偏差値50以上の生徒が75名(38%)、偏差値60以上の生徒が8名(4%)であった。目標に届かない結果となったと同時に過去回、過年度比較しても不振な結果となった。1月・2月の進研模試に向けて具体的な取組を行うことで受験生としてのスタートを切らせた。	B
		第3学年	□自律し、充実した家庭学習ができるよう指導する。 □志望校・志望学部・学科を明確にさせる。 □目標に向かって最後まで努力を続けさせる。	○部活動引退後4時間以上の学習時間が40%(約90名)以上。 ○9月の進路志望調査で全員が志望校・学部・学科を記入できる。 ○国立現役合格者数50名(21%)以上。	○49名(22%)と基準には達していないが、4月に比べ3倍増にはなっている。更に受験生としての自覚を持たせた。 ○志望校が未定と答える者はいないが、具体性がない者はいる。受験パターンや計画を随時確認しながら、意識づけを行いたい。 ○達成基準を目標に、学年で共通理解のもと継続して取り組んでいる。	○7月以降調査を実施していないが、夏以降から様々な入試に対する準備が始まり、多くの者が時間を増やしていると思われる。 ○就職希望者は出ず、公務員希望1名で、9月の調査は未実施となったが、2学期以降の校外模試では全員が第1志望校・学部・学科を記入できている。 ○現状では例年を下回る結果が出ているが、達成基準を目標に学年で共通理解のもと継続し取り組み続けている。	B

(○は数値評価、●は取組評価) 【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。

学校経営目標	主担当	具体的計画	今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況と年度末への課題	評価	達成状況と次年度への課題	評価
(2) 授業改善と学力向上の取組	③ 一人一台端末iPadの利活用 の研究・実践	教務課	☐ デジタルシティズンシップの普及や理解促進、ICT活用スキル向上を支援し、「善く使う・安全に使う」指導が可能な体制を構築する。 ☐ ICT活用提案を通じて、担任や教科担当の指導力向上を支援し、生徒の安全と学力維持のための系統的で効率的な指導を実現する。	☐ 年間3回以上のスキルアップ研修を行う。 ☐ 年間5つ以上のICT活用提案を行う。	☐ 年間3回以上のスキルアップ研修を行った。 ☐ 年間5つ以上のICT活用提案を行った。	☐ Google FormsをはじめとしたGoogle Workspaceやオンライン採点システムなどのスキルアップ研修を年間3回以上行った。また、恒常的にGmailやGoogle Chatなどを通じて活用方法などの情報提供を行っている。デジタルシティズンシップ教育のワークショップも2回行い、3回目も計画している。 ☐ 年間5つ以上の活用提案(終礼連絡のGoogle Calendarへの移行、採点のオンライン化など)を行った。	A
		進路課	☐ Google Workspace、Classi (iPad含む)を活用して、進路志望調査、キャリアパスポートを充実させる。 ☐ M講座(土曜活用講座)を活性化させる。	☐ 1年次生において、iPadを用いてキャリアパスポートを5回以上入力する機会を設ける。 ☒ M講座を計画的に実施し、生徒・保護者・教員に情報を早期に提供する。	☐ 1年次生において、iPadを用いてキャリアパスポートを3回入力しており、今後も継続していく。 ☒ M講座は計画的に実施している。	☐ 1年次生において、iPadを用いてキャリアパスポートを8回入力している。年間10回入力を予定している。次年度も継続する。 ☒ M講座は計画的に実施している。1年次生については調査をGoogle Formsを用いて参加を呼びかけている。	B
		国語	☐ 1年次の授業内で、一人一台端末iPadを使う機会を作る。 ☐ iPadやGoogle Workspaceの効果的な利用方法を研究し、共有を行う。	☐ 1年次の授業で生徒が1回以上iPadを活用する。 ☒ 様々なiPadの使い方を学び、習得する。	☐ 1年次の授業ではiPadを使った授業ができています。 ☒ iPadの様々な利用方法の習得が進んでいる。	☐ 1年次の授業ではiPadを使った授業をした。 ☒ iPadの様々な利用方法を習得できた。	B
		地歴公民	☐ 1年次の地理総合・歴史総合の授業内で、一人一台端末iPadを使う機会を作る。 ☐ iPadの効果的な利用方法を教科で共有する。	☐ 地歴公民科の科目の半数以上でiPadを使った授業をしている。 ☒ iPadの様々な利用方法を習得する。	☐ 地歴公民科の科目の半数以上でiPadを使った授業ができています。 ☒ iPadの様々な利用方法の習得が進んでいる。	☐ 地歴公民科の科目の半数以上でiPadを使った授業をした。 ☒ iPadの様々な利用方法を習得できた。	B
		数学	☐ 1年次の授業内で、一人一台端末iPadを使う機会を作る。 ☐ iPadの効果的な利用方法を教科で共有する。	☐ 1年次の授業で生徒が1回以上iPadを活用する。 ☒ 様々なiPadの使い方を学び、習得する。	☐ 1年次の授業ではiPadを使った授業ができています。 ☒ iPadの様々な利用方法の習得が進んでいる。	☐ 1年次の授業で生徒が1回以上iPadを活用している。 ☒ 様々なiPadの使い方を学び、習得できた。	B
		理科	☐ 1年次の授業内で、一人一台端末iPadを使う機会を作る。 ☐ iPadの効果的な利用方法を教科で共有する。	☐ 1年次の授業で生徒が1回以上iPadを活用する。 ☒ 様々なiPadの使い方を学び、習得する。	☐ 実験のデータ処理などで、iPadを活用した授業ができています。 ☒ iPadの様々な利用方法の習得が進んでいる。	☐ 物理基礎、生物基礎の授業で、生徒が複数回iPadを活用できた。 ☒ iPadの様々な利用方法の習得ができた。	A
		保健体育	☐ 1年次の保健体育科目の授業内で、一人一台端末iPadを使う機会を作る。 ☐ 保健体育科の教員で効果的な利用方法の共有を行う。	☐ 保健体育科目の授業で生徒が1回はiPadを活用する。 ☒ 様々なiPadの使い方を学び、習得する。	☐ 保健の授業において毎授業1回はiPadを使った授業ができています。 ☒ iPadの様々な利用方法の習得が進んでいる。	☐ 保健の授業において毎授業1回はiPadを使った授業ができた。 ☒ 教員間での共通理解を図ると共に、より良い利用方法を学ぶことができた。	A
		芸術	☐ 1年次の全ての科目の授業内で、一人一台端末iPadを使う機会を作る。 ☐ 芸術科の教員で研修の機会を設ける。	☐ 各科目の授業で生徒が1回はiPadを活用する。	☐ 毎時間1回はiPadを使用する場面を設定し使用できている。 ☒ iPadの活用方法について情報交換はできている。今後は研修の機会を設ける。	☒ 全ての授業で毎時間1回はiPadを使えたとは言えないが、必要に応じて適切に使用できた。また、教員間で日々の会話の中で研修のように教え合う場面も見受けられた。	A
		英語	☐ 1年次のすべての科目の授業内で、一人一台端末iPadを使う機会を作る。 ☐ iPadの授業内外での効果的な利用方法を英語科内で共有する。	☐ 1年次の英語の授業の半数以上で生徒が何らかの形でiPadを活用する。 ☒ 様々なiPadの使い方を学び習得する。	☐ 1年次の英語の授業の約2/3で、何らかの形で生徒がiPadを使用する場面を設けることができている。 ☒ iPadの様々な使い方を試している。生徒も徐々に慣れてきている。	☐ 英単語の小テストは、全てGoogle Formsを用いて実施した。その他、Jamboardを使わせたり、音読の録音をさせて提出させたり、グループでSlideを作らせて、発表させたりもした。 ☒ 生徒も教員も様々な使い方ができるようになってきている。	A
		家庭	☐ iPadを授業で活用し、視覚的な情報を取り込んだり、情報を共有したりして、より理解を深めていく。 ☐ iPadの効果的な利用方法を学ぶ。	☐ 授業時数の1/3以上生徒がiPadを活用する。 ☒ 様々なiPadの利用方法を習得する。	☐ 授業時数の1/3以上生徒がiPadを活用することができている。 ☒ iPadのアプリやクラスルームを段々活用できてきたので、より効果的な利用方法を習得したい。	☐ 視覚的な資料としての動画やより学習を深めるためや調べものの学習にGoogle Siteを活用したり、Slideを使った発表をしたりとiPadの活用をした。 ☒ Jamboardを活用して、班での学習活動を取り入れたかったができなかった。今後活用していきたい。	B
		情報	☐ 授業にかかわる内容についてGoogleフォームとiPadを利用して理解度を測る。	☐ 情報通信ネットワークとデータの活用について、7割以上の生徒が理解する。 ☒ iPadで制作したコンテンツをグループで統合できる。	☒ 共通テスト「情報Ⅰ」に向けて、時間的な余裕がないためiPadの利活用は出来ていない。授業の振り返りや自己評価等を目的としたGoogleフォームを作成している。	☐ 情報通信ネットワークとデータの活用については6割程度の生徒が理解した。 ☒ 年間を通じて、1人1台のデスクトップパソコンが常設された情報教室で授業を実践したため、iPadはほとんど利活用していない。	B

(○は数値評価、●は取組評価) 【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。

学校経営目標		主担当	具体的計画	今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
					達成状況と年度末への課題	評価	達成状況と次年度への課題	評価
(3)安心・安全な教育活動の保障	実① 多様な個性に配慮した教育相談・教育支援体制の確立・	厚生課	□個々の生徒に適切な対応が行えるように、教育相談を必要とする生徒・保護者に情報を提供し、学年・年次団と連携を図り、組織的に支援を行う。	○毎学期1回生徒情報について共有する機会を持つ。 ●SC、SSW、校医の専門の方と連携を取り、生徒・保護者に適切な対応を行う。	○毎学期1回生徒情報について共有する機会を持つことができた。 ●SC、SSW、校医の専門の方と連携を取り、ケース会議を適宜行いながら、HR担任などが生徒・保護者に適切な対応ができるよう支援した。	B	○毎学期1回、生徒情報について共有する機会を持つことができた。 ●SC、SSW、校医の専門の方と連携を取り、保健室、教育相談、学年主任、担任で情報交換を密に行い、適宜ケース会議を開催し、HR担任などが生徒・保護者に適切な対応ができるよう支援した。	A
		1年次	□生徒との面談を丁寧に行い、年次会議等を通じて情報共有し、支援の共通理解を行う。	●年次会議では毎回、生徒情報の共有を行う。 ●欠席が続きた初期から保護者と連絡を密にし、家庭訪問を含めて積極的な働きかけに努める。 ●年次主任を中心に、生徒情報の蓄積と共有をする体制を構築する。	入学時に長欠だった生徒は2名おり、その内、1名は9月より休学となった生徒もいた。入学当初からコロナが猛威をふるい欠席が非常に多かったが、両担任が協力してフットワーク軽くクラスをまとめていただいた。 ●年次会議では生徒情報の共有を行っているが、会議外での情報交換も活発に行い、風通しの良い環境になっている。 ●欠席が続いた生徒には家庭訪問や教育相談を含めて積極的に働きかけを行い、早期の登校に結びつく事例が複数見られた。 ●情報共有に努めているが、体制構築にまで至っていない。	A	入学時に長欠だった生徒は2名おり、その内、1名は9月より休学となり、もう1名も休みがちになっている。前半は見えていなかった大きな集団で活動する人間関係の緊張で、ストレスをため込む生徒が生徒が多い。 ●年次会議では生徒情報の共有を行っているが、会議外での情報交換も活発に行い、風通しの良い環境になっている。 ●欠席が続いた生徒には家庭訪問や教育相談を含めて積極的に働きかけを行い、早期の登校に結びつく事例が複数見られた。 ●情報共有に努めているが、体制構築にまで至っていない。	A
		第2学年	□校内美化、挨拶や規則に対する指導を通して、バランスのとれた人材を育成する。 □個別面談や学年会議で個々の実態把握に努め、教育相談と連携をしながら対処する。	○学校生活アンケートで80%以上の生徒が肯定的な回答をする。 ●担任による面談を大切にし、教育相談の先生方等と連携を密に行いながら適切な対応をしている。	○アンケートは2月期実施予定。 ●担任による面談は科目選択や進路志望、成績などの資料を基に丁寧に行われている。不登校傾向の生徒や人間関係で不安要素がある生徒が複数おり、教育相談係と適宜連携して対応している。	A	○アンケートの結果で肯定的な回答は88.8%で達成基準を上回った。 ●不登校傾向の生徒が数名おり、担任によるきめ細かい相談・連絡を行っており、保健室や相談係・SSWと連携して対応中でもあるが、登校ができなかったり、不安定な状態が継続している生徒もいる。	A
		第3学年	□個々の生徒に適切な進路指導・生活指導を行えるように、生徒・保護者及び学年団で連携を図り、組織的に支援を行う。	○学校生活アンケートで80%以上の生徒が肯定的な回答をする。 ●2年間培ってきた相談係やカウンセラー等との連携を行いながら、新規の生徒にも柔軟に対応している。	○アンケートは2学期実施予定。 ●継続中の生徒は落ち着いており、このまま連携を行いたい。新規の生徒数名もカウンセリングを受けたり、SSWの助言を頂きながら対応している。	B	○アンケートの結果で肯定的な回答は89%で達成基準を上回った。 ●継続中の生徒は受験の時期に入り、落ち着いている。新規の生徒数名もカウンセリングに繋げ、担任も含め連携をとりあいながら受験を乗り切らせたい。	A
	②校内美化と環境整備	生徒課	□部室周辺の清掃強化、安全な環境作りに必要な箇所の選定及び対策を講ずる。	○定期考査のタイミングで部室周辺清掃を実施。(年間5回) ●部活動における安全な環境作りに向けて課内で意見交換及び対応を随時行う。	○部室周辺清掃は、予定通り現段階で2回実施した。 ●用具面での安全確保には、購入・修理で対応している。設備面での安全確保のための充実を図っていく。	B	○部室周辺清掃は、予定通り現段階で4回実施した。 ●事務室と連携しながら、駐輪場や部室棟の外壁や階段などの修繕へ向けて取り組み、老朽化への対応ができた。年度末へ向けて、課内での意見交換を行い、次年度に繋げる。	A
		厚生課	□教育環境の整備と美化を呼び掛け、清掃指導を丁寧に行う。	○掃除アンケートを年2回(5月、11月)行い、改善点を明らかにする。 ●アンケートを行うことにより、清掃に対して自主的に取り組む姿勢を育てる。	○掃除アンケートを1学期は行えなかった。9月に行う予定。 ●アンケートを行うことにより、清掃に対して自主的に取り組む姿勢を育てる。	C	○掃除アンケートを2学期(10月)に行った。 ●アンケートは、清掃に対して自身の取り組み姿勢を顧ることを目的に行った。担任に、指導の際に参考にしたりフィードバックしてもらえよう、生徒の感想のまとめを渡した。	B
	③ の助で③ 確す・災 立る主害 ・防休に 実災的備 踐休にえ 制行	厚生課	□耐震対策の整備を進める。(南棟教室の蛍光灯) □生徒が、災害などが起こったときにどのように行動すべきか意識できるよう、避難訓練を行う。	○防災(火災)(地震)避難訓練を合計年2回行う。 ●生徒が具体的に行動を考えられるよう、実際に書いたり話し合う機会を設けるなどの工夫をする。	○防災(火災)避難訓練を体育館に集合して6月に行った。 ●生徒が具体的に行動を考えられるようアンケートを行い、実際に感想や問題点などについて記述し、それを校内で共有した。	B	○防災(地震)避難訓練を予告ありで12月に計画どおり実施した。 ●耐震対策の整備(普通教室学習用照明器具取替修繕)は10月に完了した。	B

(○は数値評価、●は取組評価) 【評価】 A:達成基準を上回った。 B:ほぼ達成基準どおり。 C:達成基準を下回った。

学校経営目標		主担当	具体的計画	今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
					達成状況と年度末への課題	評価	達成状況と次年度への課題	評価
(4) 地域・社会に開かれた学校づくりの推進	①くくり文と情理報数発信国際、美術工芸の特色	教務課	□生徒の将来の進路や適性に応じた、望ましい系選択や科目選択が可能となるように、説明会の充実や効果的な担任指導が行われるように支援する。 □内規、カリキュラムの見直しを検討する。	○学校自己評価アンケートの「学校には特色ある系や科目選択が用意されている」の項目において、生徒及び保護者の肯定的な回答が94%以上。 ○一般入学者選抜の志願者倍率が1.3倍以上。	○6月に行われた系・科目選択説明会では、2学年、1年次ともに100名程度の保護者の参加があり、充実したものであった。 ○夏季オープンスクールの参加者は、中学生が470名、保護者が179名であった。 ○令和4年度入学者以降の教務に関する規定の見直しをすることができた。	A	○9月の系・科目選択の最終調査での説明や指導も円滑に行われ、適切に次年度のクラス・講座編成を行うことができた。 ○秋季オープンスクールの参加者は、中学生が316名、保護者が112名であった。また、保護者対象学校説明会や中学校教員対象学校・入試説明会も盛況であった。学校自己評価アンケートの「学校には特色ある系や科目選択が用意されている」の項目において、肯定的な回答は生徒が98.5%、保護者が92.4%であった。また、1月の進路希望状況では志願者倍率が1.45倍であった。 ○教務に関する規定の全面改正も完了した。	A
		総務課	□本校の取組と生徒たちの様々な活動の様子を多様なツールで内外に向けて発信する。 □オープンスクールや学校説明会等の広報行事を成功させる。 □学校ホームページの更新方法を確立し、有効活用する。	○中学3年生の進学希望状況第1次調査における本校志願者が定員の1.2倍以上。 ○広報行事のアンケートの結果で肯定的な回答が9割以上。 ○学校ホームページを年間6回更新する。 ●学校ホームページを利用し、効果的な広報を工夫する。	○夏季オープンスクールのアンケートでは、全体会・系別説明・系別体験講座・学校案内のすべてに対して、大変良かった・良かったという肯定的な意見が97%を越えていた。 ○学校ホームページの更新は、変更点もあったが、大方計画通りに進められている。 ●学校ホームページの更新を、分業して、総務課全員で取り組めるようにしていく。	B	○夏季オープンスクールをはじめとする総務課行事のアンケートでは、全てに対して、大変良かった・良かったという肯定的な意見が97%を越えた。 ●学校ホームページの更新は、変更点もあったが計画通りに進められた。 ●学校ホームページの更新を、分業して、総務課全員で取り組めるようにしてい。また、データや資料の整理や精選を進めていく。	A
	②の責地研域究する社会実活会	地域連携	□3年間うちで1日以上インターンシップ(小中幼保での学習支援)に参加ができるよう支援する。(コロナ事情で3年生でも参加可能に調整する。) □活動経験から課題発見や課題探求の能力が養えるように支援する。	○2年生終了時点で、全員が1日以上インターンシップを経験している。 ○キャリアパスポートや学校自己評価アンケートにおいて70%以上の生徒が充実感を持てたことや学びを深める糧になったと記入や回答をする。	○現2年生では、インターンシップ未経験が237名中残り3名となった。また、2年生夏季までに大半の生徒が活動経験日数3日以上となっている。 ○年度末のアンケート結果をもって評価する。	A	○活動経験日数が0日の者が1年次に2名ほどいるが、今後の活動により今年度末までに1日以上は達成できる見込みである。 ○年度末のアンケート結果をもって評価するものであるが、1年次で行った社会貢献活動ポスターセッションでは、充実感はもとより地域課題に目を向けた発表が多数あったため、一定の成果はあったとみている。	A
	③携窓P・会T強とA化の、	同窓会	□開校40周年に向けて同窓会としての関わり方を検討する。 □必要に応じて同窓会の会則を見直し、今後の同窓会のあり方を検討していく。	●教材室にある資料を整理すると同時に、資料室が生徒に使いやすいスペースになるよう環境を整備する。 ●開校40周年に向けて学校と同窓会の架け橋となる。 ●同窓会事務局や評議員の負担が軽くなる方法を検討する。	●教材室内を片付け、必要な資料を新しい部屋に移動させた。すでに分類済み。	B	●資料室を整理し、生徒も有効利用できるようにテレビを設置した。 ●開校40周年に向けて学校のためにできることを今後具体化していく予定である。 ●同窓会事務局や評議員の負担が軽くなる方法は大きな検討課題。	B
(5) 働き方改革への取組	①実践個人工夫で	運営指導部	□運営指導部の会議を円滑に進め、スクラップ&ビルドを推進する。 □具体案の個人提案を吸い上げ、指導部で検討し、全体へ周知していく。	○学校自己評価アンケートで、自校で働く充実感満足感が80%以上。 ●風通しの良い職場になることで、チームとして業務が進み、勤務負担軽減の提案や意見が自然と運営指導部に提言されている。	○年度末のアンケート結果をもって評価する。 ●風通しの良い職場になっているのか見えづらいが、年度後半期は次年度への向けての議題と合わせて業務軽減を模索する。	B	○年度末のアンケート結果をもって評価する。 ●今年度の課題改善点は、業務負担や業務軽減の項目を含めて各課・系から出てくる。それをもとに次年度に取り組める項目を決定したい。	B
	②き次課工教・夫科学・等年実で・実践で年	教務課	□教職員が働きやすいように業務の見える化を図り、効率化を目指す。 □事前の準備を充実させ、業務の円滑な実施を目指す。 □ICT活用を通じて、教務・校務の負担軽減を図る。 □アカウントや機器の管理・更新を遺漏なく行う。	○諸帳簿・成績・印刷物関連は、ミスを年間ゼロにする。 ●間違いを防ぎ、事前準備を充実させるために業務の一覧(マニュアル)を作成する。 ●Googleドライブ共有フォルダの有効な活用体制を構築し、運用を開始する。 ●Googleサイトやコミュニケーションツールを活用した情報共有環境を構築し、運用を開始する。	○各係で、ミスをなくす努力をすることができた。 ●課内で共通理解を持つために、近年、開催できなかった教務課会議を、1学期に5回開催することができた。 ●職員会議資料のデジタル化など、共有フォルダの有効な活用体制を構築し、運用を開始することができた。 ●新しい朝礼・終礼連絡や自動採点システムの運用を開始することができた。	A	○各係とも、ほとんどミスなく2学期を終えることができた。 ●1月末までに、教務課会議を10回開催することができた。今後は、入学者選抜にしっかりと共通理解を持って臨みたい。 ●Google Calendarを活用した資料提示、行事予定管理、朝礼・終礼連絡、会議予約なども軌道に乗ってきた。 ●自動採点システムの運用により、校務を軽減することができた。	B
	③工学校・全実体実践ででき	運営指導部	□月別定時退校アンケートフォームを作成し、全職員へ周知を繰り返す。 □入力状況や実態データを毎月始めにフィードバックし、定時退校をきっかけとして業務精選を浸透させる。	○月別定時退校回数アンケートフォームの入力者が80%以上。 ●個人・学年・年次・教科・課等で、日常の業務が精選や持続可能な視点を意識して取り組まれている。	○8月現在、アンケートフォーム入力者は、50%を下回った。 ●朝礼や職員会議等での入力声かけを増やしていきたいが、入力に関しては義務ではない。業務精選が学校全体で進めていく一つの手段となるようにしていく。	C	○10月アンケートフォーム入力者も、50%を下回ったが、9月入力者より上がっている。 ●任意の協力性であるため、強制力は高めたくないが、Google Calendar朝礼連絡などで広報していく。先生方自身の意向で入力することにより業務精選を考えるきっかけとした。 ●今年度の運営指導部会議は昨年度に比べかなり軽減できた。各部署での工夫があった成果である。	B